終了４

調査研究終了報告書

研究分野：保健

調　査　研　究　名	県内に生息するダニ類の病原体保有状況に関する研究
研究者名（所属） ※ ○印：研究代表者	○石橋哲也、中山志幸、世良暢之、千々和勝己（ウイルス課）、山崎正敏、緒方健（環境生物課）
本庁関係部・課	
調査研究期間	平成　20　年度（1　年間）
調査研究種目	１．□行政研究　■課題研究 □共同研究（共同機関名：　　） □受託研究（委託機関名：　　） ２．■基礎研究　□応用研究　□開発研究 ３．□重点研究　□推奨研究　□ＩＳＯ推進研究
ふくおか新世紀計画 第３次実施計画	柱　：いきいきと暮らせる安全・安心な社会づくり 大項目：健やかに暮らせる社会づくり 小項目：県民の健康くらしづくり
福岡県環境総合基本計画 （P20,21）※環境関係のみ	柱　： テーマ：
キ　ー　ワ　ー　ド	①マダニ　②日本紅斑熱　③ツツガムシ病　④　⑤

研　究　の　概　要

１）調査研究の目的及び必要性

福岡県内においては、平成17年に初めて日本紅斑熱患者が確認された。ツツガムシ病患者も毎年報告されている。これらリケッチア感染症は、野外での活動中にダニに刺咬されたことで感染したものと推測されている。ダニ刺咬によって媒介される感染症予防を目的に、県内のダニ生息調査、ダニの病原体保有状況調査および野ネズミの調査を行った。

２）調査研究の概要

ダニ調査：日本紅斑熱患者発生地域を含む県内数カ所に生息するマダニ類を捕獲し、病原体リケッチアの保有状況をPCR法により確認する。

野ネズミ調査：主に過去にツツガムシ病が発生した地域で野ネズミを捕獲し、付着ダニの調査および野ネズミの病原体保有状況を調査する。

３）調査研究の達成度及び得られた成果（できるだけ数値化してください。）

マダニ類135匹、野ネズミ35頭の脾臓について紅斑熱群リケッチア検出用プライマー、ツツガムシリケッチア検出用プライマーをもちいてPCRを行った。また、野ネズミの体に付着していたダニ類3,372匹の分類を行った。

４）県民の健康の保持又は環境の保全への貢献

今回の調査では、日本紅斑熱リケッチアおよびツツガムシリケッチアも確認されなかったが、ツツガムシ病リケッチアを媒介するタテツツガムシ、フトゲツツガムシは採取され、病原性等未知の紅斑熱群リケッチア遺伝子も検出されており、患者発生状況などと併せて、野外活動時における注意喚起を行っていく上での基礎資料となる。

５）調査研究結果の独創性，新規性

約20年前に当所で福岡県内の野ネズミのツツガムシリケッチア保有状況調査は行われているが、その後は行われていない。また、紅斑熱群リケッチアについての調査は今回が初めてである。

６）成果の活用状況（技術移転・活用の可能性）

無し